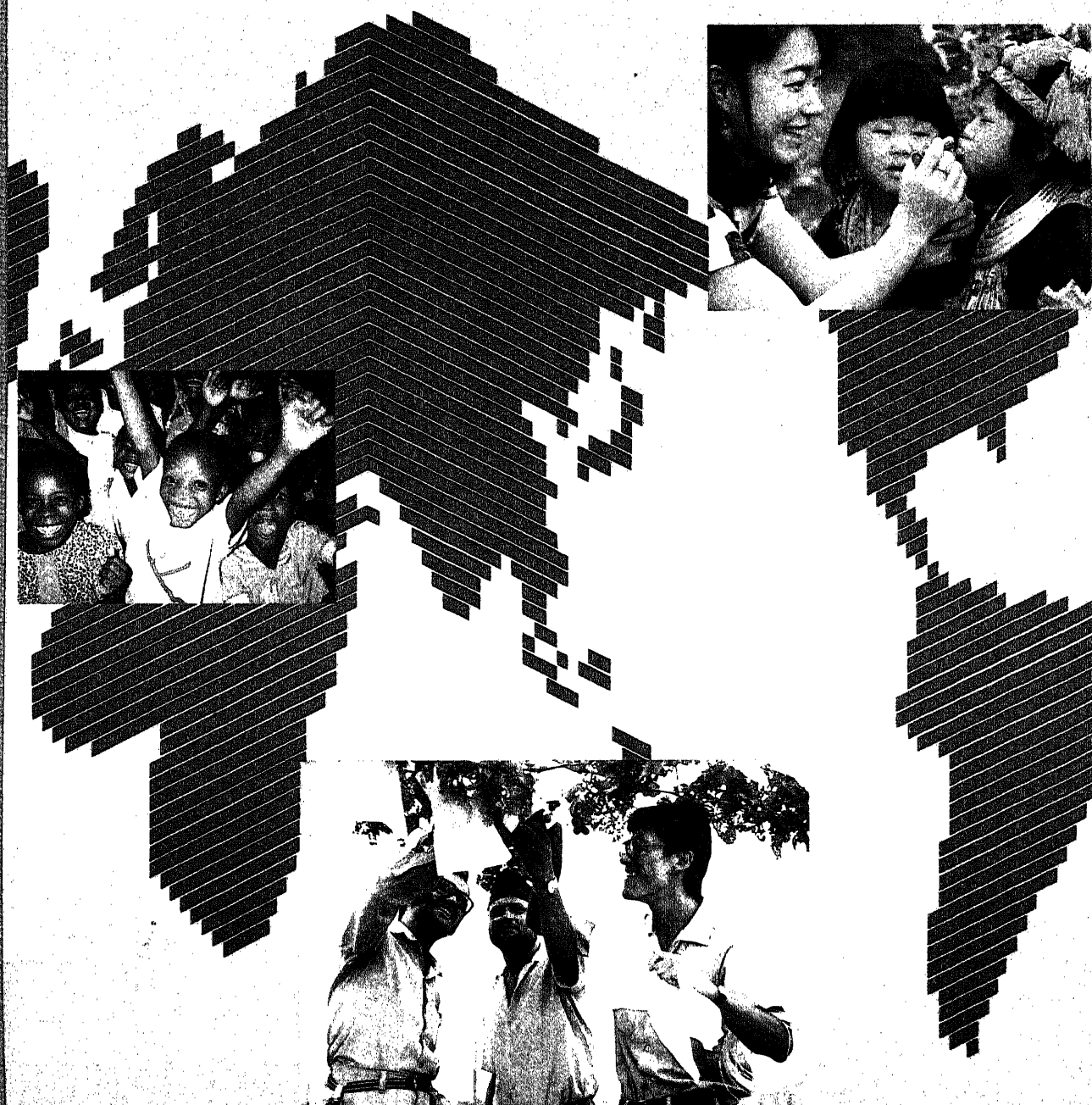


国際協力事業団年報

1990



国際協力事業団
Japan International Cooperation Agency

JICA LIBRARY



1084094101

21412

国際協力事業団年報

1990

国際協力事業団

国際協力事業団

21412

マイクロ
フィルム作成

国際協力事業団年報1990

- 第1部 国際協力と国際協力事業団
- 第2部 地域別・主要開発途上国別事業概要
- 第3部 1989年度総括事業実績
- 参 考 事業団の組織及び予算

国際協力事業団年報1990 (資料編)

- 第4部 国別事業概要
- 第5部 事業実績・事業統計

<表紙・裏表紙の写真>

—第11回国際協力フォトコンテスト応募作品—

表紙・右上 タイ「きれいな」(特選・横山恵美子氏)

表紙・左中央 ガーナ「さあ踊ろう!!—ダンス・ミュージックが始まり、
一斉に踊ろうとする子供たち」(準特選・青谷尚一郎氏)

表紙・中央下 ネパール「カウンターパートと共に働く協力隊員」(高山一義氏)

裏表紙 ヴィエトナム「露店の床屋」(吉沢忠治氏)

序

国際協力事業団は、1974年に設立されて以来、技術協力及び無償資金協力を中心に、開発途上国に対する政府ベースの援助を行ってまいりました。この間にわが国のODA（政府開発援助）は飛躍的な拡大を遂げ、当事業団の事業規模も大きく増大いたしました。

開発途上国のなかには、アジアNIEs諸国のようにめざましい経済発展を遂げつつある国も見られますが、ほとんどの国が累積債務や輸出不振などにより経済は低迷し、数多くの問題を抱えており、そのため、援助国側の一層の努力が求められています。1989年のわが国のODA実績は、世界第1位の規模になりましたが、今後わが国の果たすべき責任と役割がますます増大すると考えられます。このような状況の下、技術協力と無償資金協力を中心にODA事業の一翼を担う当事業団としましても、ますます大きな責任を感じる次第です。

当事業団では、より効果的な援助を実施するために国別、地域別の援助実施指針をもち、長期的な視野に立って、各開発途上国毎にきめ細かい援助を実施することを目指しています。また、協力基盤を拡大するため、内外の援助機関との協調や、地方公共団体の国際交流事業との連携をより一層積極的に進めてまいりたいと思います。

さらに今日、地球的規模の環境問題や貧困問題など世界的な課題への取り組みがますます重要になってきています。熱帯雨林の減少や人口増、食糧不足などが多くの開発途上国にとって持続的開発を進める上での大きな問題となっています。当事業団としてもこうした世界的な問題の解決に積極的に貢献してまいりたいと考えています。

このような最近の対開発途上国援助の傾向を特に念頭に置きつつ、1990年版「国際協力事業団年報」をここに刊行いたします。ODAに対する国民的関心が高まりつつある今日、当事業団の事業についての理解を深めていただく絶好の機会と考え、より読みやすい年報を目指しました。国際協力の実情についてより一層のご理解をいただくための一助としていただければ幸いです。

1990年10月

国際協力事業団
総裁 柳谷謙介

目 次

《本 編》

■第1部 国際協力と国際協力事業団

第1章 わが国の政府開発援助

- 第1節 政府開発援助の概要 3
- 第2節 わが国の政府開発援助の体制と最近の主な施策 5

第2章 1989年度の主な活動

- 第1節 国別援助実施指針の策定 9
- 第2節 環境分野の協力 11
- 第3節 貧困問題への取り組み 13
- 第4節 開発と女性 14
- 第5節 地方の国際化と国際協力 16
- 第6節 東欧諸国への協力 18

第3章 事業の種類とその概要

- 第1節 援助効率促進事業 19
- 第2節 技術協力事業 23
 - 第1 技術研修員受入事業 23
 - 第2 青年招へい事業 31
 - 第3 技術協力専門家派遣事業 32
 - 第4 技術協力機材供与事業 34
 - 第5 プロジェクト方式技術協力事業 36
 - 第6 開発調査事業 41
- 第3節 無償資金協力事業 48
- 第4節 青年海外協力隊派遣事業 52
- 第5節 開発協力事業 58
- 第6節 海外移住事業 61
- 第7節 災害援助等協力事業 65
- 第8節 技術協力専門家養成確保事業 69
- 第9節 技術協力専門家等福利厚生事業 73

■第2部 地域別・主要開発途上国別事業概要

第1章 アジア地域Ⅰ（東・東南アジア）

- 第1節 地域概説 77
- 第2節 中国 81
- 第3節 インドネシア 83

第4節	マレーシア	85
第5節	フィリピン	88
第6節	シンガポール	90
第7節	タイ	92
第2章	アジア地域II (南西アジア)	
第1節	地域概説	95
第2節	バングラデシュ	98
第3節	インド	100
第4節	ネパール	102
第5節	パキスタン	104
第6節	スリ・ランカ	106
第3章	中近東地域	
第1節	地域概説	109
第2節	エジプト	112
第3節	イラン	114
第4節	イラク	116
第5節	モロッコ	118
第6節	サウディ・アラビア	120
第4章	アフリカ地域	
第1節	地域概説	123
第2節	ケニア	126
第3節	セネガル	128
第4節	タンザニア	130
第5節	ザイール	133
第6節	ザンビア	135
第5章	中南米地域	
第1節	地域概説	137
第2節	アルゼンティン	141
第3節	ボリヴィア	143
第4節	ブラジル	145
第5節	コスタ・リカ	147
第6節	メキシコ	149
第7節	パラグアイ	151
第8節	ペルー	153
第6章	オセアニア地域	
第1節	地域概説	155
第2節	フィジー	158
第3節	パプア・ニューギニア	161
第7章	ヨーロッパ地域	
	地域概説	163

■第3部 1989年度総括事業実績

第1 形態別人数実績	168
1. アジア地域	168
2. 中近東地域	169
3. アフリカ地域	170
4. 中南米地域	171
5. オセアニア地域	172
6. ヨーロッパ地域等	173
7. 国際機関	174
8. 全世界	175
第2 事業別人数実績	176
第3 事業別経費実績	177

■参 考 事業団の組織及び予算

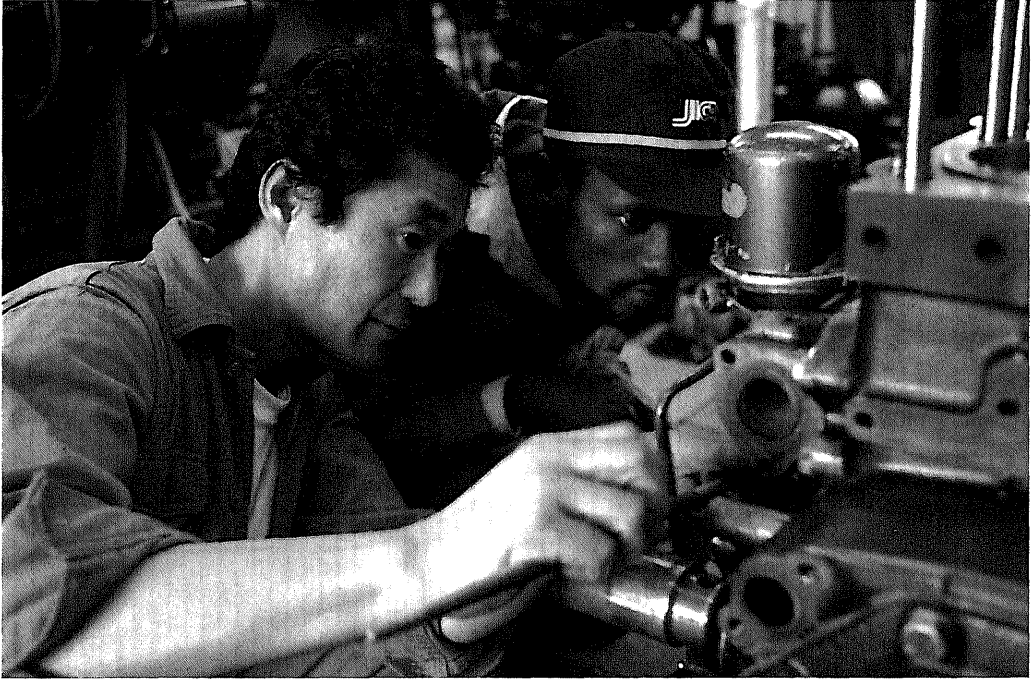
第1 国際協力事業団の沿革	181
第2 組織と定員	183
第3 予算	186

■本文中の囲み記事

『九州国際センターの開設』	16
『大気汚染対策コースの開設』	24
『人との出会い』	31
『サウディ・アラビアの電気通信専門家』	33
『タイ国プライマリー・ヘルス・ケア訓練センター』	36
『日米協力』	41
『外国人コンサルタントの活用』	43
『ホンデュラスの協力隊員』	54
『サンフランシスコ地震の調査』	66
『インドネシア国別援助研究会』	83
『マレーシア高速道路管理計画調査』	85
『バングラデシュ洪水対策』	98
『カイロ大学医学部小児病院』	112
『ケニアからの研修員』	126
『キリマンジャロの陶磁器隊員』	130
『歴史的都オアハカでの指導』	149
『漁業振興への無償資金協力』	158

■本文中の一覧表

「集団研修コース実績」	25
「研修センター」	29
「プロジェクト方式技術協力実績」	38
「開発調査実績」	45
「無償資金協力基本設計調査実績」	50
「青年海外協力隊派遣取極め国」	57
「国際緊急援助隊派遣実績」	68



漁船保守の研修（神奈川県国際水産研修センター／技術研修員受入）



高等学校の見学（東京都立両国高校／青年招へい）



サナア旧市街保存計画（イエメン／技術協力専門家派遣）



バイタ漁業訓練センター（ペルー／プロジェクト方式技術協力）